

Patrick DSP's TT-303 Cheat Sheet

Cyclone Analogic TT-303 Bass Bot v1 · OS 2.0 · 2026年10月30日

2.0 OS 2.0 で追加された機能を示す **303** TB-303 マニュアルの
情報で、TT-303 では未確認のものを示す

目次

基本とシステム

はじめに: 全体像	パネルと接続
動作モード	システムとメンテナンス
トラブルシューティング	

書き込みと編集

プリセットパターン	パターンを書く
パターンを編集する	

演奏とトラック

演奏とパフォーマンス	トラック
Arpeggiator	

MIDI と同期

MIDI と同期

リファレンス

TB-303 メモ	ショートカットと MIDI リ ファレンス
-----------	--------------------------

はじめに: 全体像	↑ 目次
-----------	------

最初に読む。Bass Bot とは何か、メモリーの構成、ボタン
操作の書き方を説明する。

概要

Cyclone Analogic TT-303 Bass Bot: パターンシーケンサーを内蔵した TB-303 スタイルのベースシンセ。このシートは OS 2.0 を搭載した初代 TT-303 (v1) を扱う。後発の v2 ハードウェアは対象外

サウンド: アナログ VCO 1基 (saw または pulse)、4ポールのカスケード式ローパスフィルター、ノブ 6個: Tuning、Cutoff、Resonance、Env Mod、Decay、Accent

シーケンサー: ステップ式、1パターンあたり1から64ステップ。各ステップ: ピッチに加えて Down、Up、Accent、Slide (DUAS)

InstaDJ OS: 7つのスタイルでパターンを自動生成する。Mutate はどんなパターンも新しいパターンに変える

メモリー

Preset メモリー: 7グループ x 4セクション x 8パターン = 224パターン。必要に応じて再生成され、編集はできない

User メモリー: 同じ構成で224パターン、編集可能、電源を切っても保持される。Pattern Write、Pattern Play、Track Write、Arpeggiator が使う

セクション: A と B (LED 点灯)、AA と BB (LED 点滅)。**A** をもう一度押すと AA、**B** をもう一度押すと BB。AA は下書きセクション

表記: グループ # = Track/Preset スイッチの1から7、(X) = セクション、{#} = パターン1から8

パターン LED が暗い: 空。選択中のパターンはテンポに合わせて点滅する

ボタンの表記

A + **B**: 最初のキーを押したまま、次のキーを押す
パターンの範囲を選ぶ: 最初と最後の番号を同時に押す。例: **1** + **4** で {1-4} を順に再生

基本的な流れ

1. Preset モード: パーソナリティ1から7でパターンを生成して試聴する
2. お気に入りを Pattern Write の下書きセクション AA にコピーする
3. Pitch Mode で編集し、Mutate、Shift、Transpose、タイミング調整で好みに仕上げる
4. 完成したパターンをマスターセクション A か B に移す
5. Track Write: パターンをトラックにつなぐ。小節ごとのトランスポーズも可能
6. Track Play で演奏する。Pitch Mode のライブ技とアルペジエーターを使う
7. ユーザーパターン、トラック、設定を Cyclone Studio でバックアップする

クイックスタート

音色ノブ5個を設定し、Mode スイッチを Preset、Track/Preset スイッチを1にする

1から8のパターンを選んで **RUN/STOP** を押すと、ループ再生が聴ける

モードの順番は曲作りの流れに沿っている: Preset で試し、パターンを選び、トラックを組む

パネルと接続

[↑ 目次](#)

機器を接続するときや、各ジャックとノブの働きを知りたいときに読む。

リアパネル (左から右)

Mix In: ほかの音源 (2台目の Bass Bot、TT-606) の音声を Output と Headphone にミックスする

Saw/Pulse スイッチ: 左が saw、右が pulse。中間で止まると音が出ない

MIDI: DIN-8 ジャック。MIDI In と Out にはスプリッターケーブルを使う。標準の5ピンケーブルは In 専用

CV / Gate Out: 1オクターブあたり1ボルト

Headphone: ステレオ。Output: モノ

DC 9V: 9 V DC、200 mA、センターマイナス。12 V を超えると内部の保護ヒューズが作動することがある

マスターコントロール

Power / Volume: 右に回すと電源オン。Headphone と Output のレベルを調整

Mode スイッチ: 7モード。動作モードを参照

Track/Preset スイッチ: モードに応じてトラック、プリセットのパーソナリティ、パターングループを選ぶ

Tempo: BPM を設定。外部 MIDI クロックを検出している間は無効

オーディオコントロール

Tuning: VCO のピッチ。オートチューニングの前に中央に合わせる

Cutoff: ローパスのカットオフ周波数

Resonance: フィルターのフィードバック。上げるほど squelch が強まる

Env Mod: フィルターエンベロープがカットオフをどれだけ開くか

Decay: 各ノートの後でフィルターエンベロープが下がる速さ

Accent: アクセント付きノートがどれだけ大きくなり、エンベロープがどれだけ余分に開くか

動作モード

[↑ 目次](#)

Mode スイッチの各位置の役割を知りたいときに読む。

Mode スイッチ

Preset: パターンの生成と試聴。Track/Preset スイッチでパーソナリティ1から7を選ぶ

Pattern Write: パターンの作成と編集。スイッチでパターングループ1から7を選ぶ

Pattern Play: 編集も保存もせずにパターンを再生する

Track Play: トラック (パターンの並び) を再生。スイッチでトラック1から7を選ぶ

Track Write: トラックの作成と編集

MIDI: MIDI チャンネル、オートチューニング、システムカラー、バックアップ、外部コントロール

Arpeggiator: パターンベースのアルペジエーター。ユーザーパターンのみ

Pitch Mode と Normal Mode

Normal Mode: Copy、Paste、Mutate、Shift などパターン単位のコマンド

PITCH MODE: 停止中はステップ編集。動作中はライブ演奏用のキー

FUNCTION: Pitch Mode と Time Mode を終了する。ほかのキーと一緒に押してコマンドを実行
再生中に Pitch Mode が有効な間は Pitch Mode LED が点滅する

パターン編集コマンドは Pattern Write でのみ使える。Normal Mode か Pitch Mode のどちらかのコマンドになる

プリセットパターン

[↑ 目次](#)

Bot にパターンを生成させたいとき、パーソナリティを選ぶとき、全プリセットをリセットするときに読む。

試聴

Preset モード、Track/Preset スイッチを1から7にし、セクションとパターンを選んで **RUN/STOP** を押す

同じグループのプリセットはすべて共通の性格を持つ

パーソナリティごとに LED の色分けが異なる

生成

セクションを選び、次にパターンを選び、

FUNCTION + **GEN** を押す

1 + **8** で8つすべてを選ぶと、相性のよい8パターンを一度に生成できる。**RUN/STOP** で順に聴く

Pattern Write での生成も可能だが User メモリーを埋めてしまう。Preset モードで行うこと

パーソナリティ

プリセット1と2: なめらかなリード系。通常は4/4

プリセット3と4: グリッチ風のリフ、ブレイク、つながぎ。4/4 または 2/4

プリセット5と6: カオスで複雑なリード。多くは4分音符か3連符で、1から16ステップ

プリセット7: 3連符系。通常は12個の3連符ノート
Bass Bot は1台ごとに独自のパターンを生成する。
7つのパーソナリティはどの機体でも同じ

パチンコリセット (全プリセット)

電源を切る。**PATTERN CLEAR** を押したまま電源を入れる。止まったカラスペクトラムが表示される

PITCH MODE LED が消えるまで (約5秒)

PATTERN CLEAR を押し続け、その後離す

224個のプリセットがすべて再生成される。User メモリーは変更されない

プリセットを User メモリーにコピー

Preset モードで: **FUNCTION** + **CPY**

Pattern Write に切り替え、空きスロット (LED が暗い) を選ぶ。たいてい AA: **FUNCTION** + **PST**

Pitch Mode で調べると、Bot がどう組み立てたかが分かる

元のパターンは Preset メモリーにそのまま残る
下書きセクション AA は実験の場所。最終版は A
か B に移すと、トラック作りが早くなる

パターンを書く

[↑ 目次](#)

ノート、タイ、休符、スライド、アクセントを1ステップずつ入力したいときに読む。

ステップ編集

Pattern Write モード、停止中にパターンを選び、
PITCH MODE を押す。最初のステップが鳴って表示される

Note ON: 鍵盤キーを押し、DUAS を設定する

DOWN または **UP**: 1オクターブ下または上。

ACCENT: 大きく明るいステップ。 **SLIDE**: 次のノートへなめらかにつなぐ

タイ (音を伸ばす): **TIME** + **TIE**。 **TIE** は **UP** キー。直前のピッチをもう1ステップ繰り返す

休符 (note off): **TIME** + **REST**。 **REST** は **ACCENT** キー

タイや休符のステップでノートキーを押すと、ノートに戻る

WRITE/NEXT: 次のステップ。 **BACK**: 前のステップ。 **PITCH MODE**: ステップ1に戻る。 **FUNCTION**: 終了

パターン終端マーカー: DUAS LED が点滅する

DUAS LED は現在のステップにどの修飾があるかを示す。4つすべてが同時に点灯することもあるいつでも前後に移動して、どのステップでも直せるタイのステップは直前のピッチを繰り返すので、ピッチは変えられない。ノートキーを押すとノートに戻る

例: Up と Accent を設定したステップは、1オクターブ高く大きく鳴る。Slide を足すと次のノートへなめらかにつながる

ゼロから新しいパターンを作る

Pattern Write: **PATTERN CLEAR** + **#**。範囲を消すには **PATTERN CLEAR** + **1** + **4**

PITCH MODE。DUAS が点滅していれば0ステップ。ノートキーを押してステップ1を追加し、DUAS を設定して **WRITE/NEXT** で次のステップへ
パターンの長さは入力したステップ数で、1から64
FUNCTION で終了し、**RUN/STOP** で試聴する

パターン LED: 暗いのは空。空きがなければ、上書きしてよいものを選ぶ

挿入、削除、タイム

現在のステップの前に休符ステップを挿入: **TIME** + **INS D#**。長さが1増える

現在のステップを削除: **TIME** + **DEL C#**

Time Mode: **TIME** を押し、**WRITE/NEXT** で最初の音符の長さまで進む。**NEXT** と **BACK** で移動、**FUNCTION** で戻る。このモードでは音も位置表示もない

パターンのタイミングと長さ

デフォルトは1/16のタイミング。3連符のタイミング: 停止中に **FUNCTION** + **TRIPLET** (**0** キー)。もう一度で戻る

タイミングの確認: パターンを選んで **FUNCTION** を押し続ける。3連符のパターンでは Triplet LED が点灯する

パターンを編集する

[↑ 目次](#)

コピー、ミュート、シフト、トランスポーズ、Unroll、タップでのリタイミング、Gate time の設定をしたいときに読む。

コピー、ペースト、マージ

Copy: **FUNCTION** + **CPY**。Paste: **FUNCTION** + **PST**。クリップボードは次のコピーまで残るので、何度でもペーストできる

Merge: **5** + **8** のように範囲を選び、**CPY**、1つの宛先を選んで **PST**。4つのパターンが1つになる。最大64ステップ

MIDI で別の Bass Bot にクローンする場合も、同じ Copy と Paste を使う

マージはトラック用のセクションを埋めたりバリエーションを作るのに便利。例: マージしたパターンの最後の小節だけ変えてから Mutate プリセット、アルペジエーターの結果、別の Bass Bot のパターンも、同じキーでコピーできる

パターンの変形 (Pattern Write、停止中)

半音単位のトランスポーズ: **FUNCTION** + **UP** または **FUNCTION** + **DOWN**。再生中は一時的

時間方向のシフト: **FUNCTION** + **WRITE/NEXT** で右、**FUNCTION** + **BACK** で左にシフト

Mutate: **FUNCTION** + **MUT**。気に入るパターンに育つまで繰り返す

1回分の変更を元に戻す: **BACK** + **TIME**。Pitch Mode と Time Mode では使えない

Undo の対象: paste、generate、clear、Pitch Mode と Time Mode の確定、カラー、mutate、shift、transpose

Normal Mode のトランスポーズは保存されたノートを半音単位で変える。再生中の Pitch Mode のキーは一時的なライブトランスポーズ

シフトはパターンを大きく変えることがある。TT-606 のような外部ドラムクロックがあると判断しやすい

Mutate: Pitch Mode での小さな編集はパターンの「遺伝的構造」を変えるので、編集後にもう一度 mutate すると新しい方向が出る

Mutate を繰り返して、古いパターンから新しいパターンを育てる

パターンカラー

FUNCTION + **LED** を押し、鍵盤上の13色のうち1つを押す

選択中に **PATTERN CLEAR** を押すと色が外れ、システムカラーに戻る

Unroll 2.0

短いパターンを標準の長さに伸ばす。16ステップ未満は16に、16から31は32に、31を超えると64になる

Pitch Mode で **WRITE/NEXT** を使って終端マーカまで進み、スワイプのアニメーションが出るまで

WRITE/NEXT を (約2秒) 押し続ける

もう一度 Unroll すると16、次に32、次に64になる

例: 4ステップのパターンは16ステップになり、ライブでの変更がしやすくなる。6ステップのパターンを16に Unroll すると新しいグルーヴになる

Tap Input Mode 2.0

パターンのタイミングを作り直す。ピッチと DUAS はそのままで、リズムだけがタップに置き換わる

Pattern Write で **RUN/STOP** を押し、次に

PATTERN CLEAR を押す。1拍目が強調されたクリックが鳴る

新しいリズムで **TAP** を押す。タップごとに元パターンの次のノートが鳴る。元の休符とタイはスキップされる

長くタップするとタイになる。直前にタップしたステップに slide があれば、次のステップへ引き続きスライドする

16ステップ1小節で終了する。早く抜けるには

PATTERN CLEAR をもう一度押す。繰り返しも可能

結果は最大16ステップ。元のパターンより多くタップしてもよく、ノートはループする

使われなかった元のステップは、別のパターンを選ぶまで記憶される

例: ステップ1、3、7、10、13あたりでタップすると5音のリズムになる。3と13を長く押さえたタップはタイになる

直前にタップしたステップに slide があれば、間に休符があっても次にタップしたノートにスライドして入る

Gate time 2.0

Pattern Write、Pattern Play、Arpeggiator モードで **FUNCTION** + **TIME** を押し続ける。鍵盤 LED が選択肢を示す

F# が標準の50%。左のキーは短く、右のキーは長くなる

FUNCTION で確定、**PATTERN CLEAR** でキャンセル。全パターン共通のシステム設定

Gate time はすべてのノートの感触を変える。選択肢を聴き比べるとよい。50%が標準設定

グループ全体を消去

グループを選び、Pattern Write で Pitch Mode をオフにする

A + **B** + **PATTERN CLEAR** を5秒間押し続ける。パターン LED が消える

演奏とパフォーマンス

[↑ 目次](#)

パターンをライブで演奏し、トランスポーズし、ライブでアクセントやスライドを加えたいときに読む。

パターンを再生する

RUN/STOP で選択中のパターンをループ再生。範囲を選ぶと順に再生してからループする

Pattern Play はライブ向けの安全なモード。編集も保存もできない

パターン LED はテンポに合わせて点滅する

ライブパフォーマンス (Preset、Pattern Write、Pattern Play、Track Play)

再生中に **PITCH MODE** を押す。LED が点滅する
鍵盤キーがパターン全体をトランスポーズする。低い C が基準。G は半音7つ上

DOWN、**UP**、**ACCENT**、**SLIDE** は一時的なライブ技として働く

Pattern Write では、**FUNCTION** + **UP** または **DOWN** でライブ中にビートに合わせてオクターブを動かせる

トラック

[↑ 目次](#)

パターンをつないで最大255小節の曲にしたいときに読む。

基本

トラックはパターンの連なり。トラックは7つで、それぞれ最大255小節。1小節はパターンの1周分

トラック N はユーザーパターングループ N のパターンだけを使う

トラックを書く

Track/Preset スイッチをそのトラックにし、Track Write モードにする。小節1のセクションとパターンを選ぶ

RUN/STOP で選択中のパターンをループ再生して試聴する。何も確定されない

小節のトランスポーズ: **PITCH MODE** を押したままノートを押す。低い C が基準。**PITCH MODE** + **D** は半音2つ上。トラックと一緒に保存され、パターンは変わらない

WRITE/NEXT: 次の小節。 **BACK**: 前の小節。

PATTERN CLEAR: 最初の小節。DUAS の点滅がトラックの終わり

現在の小節の前に小節を挿入: **FUNCTION** + **INS**。

現在の小節を削除: **FUNCTION** + **DEL**

トラックを消去: 選択して **A** + **B** +

PATTERN CLEAR を5秒間押し続ける。終わるとDUAS が点滅する

小節間の移動は、Pattern Write でステップ間を移動するのと同じ

例: スロット3の4小節トラックはグループ3のパターンだけを使う。パターンを選び、

WRITE/NEXT、次のパターンを選び、4回繰り返す

トラックを再生する

Track Play モードで **PATTERN CLEAR** を押して小節1に戻り、**RUN/STOP**。止めるまでループする

再生中に別のトラックを選ぶと、現在のトラックが終わった後で始まる

ライブパフォーマンス用のキー (Pitch Mode) は Track Play でも使える

Arpeggiator

[↑ 目次](#)

パターンをパターンベースのアルペジエーターに通したいときに読む。

仕組み

Arpeggiator モード。ユーザーパターンを選ぶ。リズム、長さ、休符、DUAS はそのパターンで決まる。Preset メモリーは使えない

ピッチは鍵盤から取る。キーはオンとオフが切り替わり、押し続ける必要はない

演奏前に **PITCH MODE**: すべてのキー LED が消える。キーを押してピッチを有効にする

動作中は **PITCH MODE** でパターン選択とアクティブノート選択を切り替える。停止中はパターン選択に戻る

外部 MIDI コントローラーからアルペジエーターを操作することもできる

すぐ試す: パターンを選び、**PITCH MODE**、キーを1つオン、**RUN/STOP**。パターンのリズムで1つのピッチが聴こえる。キーを増やすとアルペジオになる
Gate time は Arpeggiator モードにも適用される

ノート順

WRITE/NEXT で4つの順序を切り替える。Up と Down の LED が順序を示す

Up: Down LED 消灯、Up LED 点灯。Down: Down 点灯、Up 消灯。Up/Down: 両方点灯。Random: 両方点滅

アルペジエーター出力を保存 2.0

パターン選択メニューで: **FUNCTION** + **CPY** でアルペジオ化したパターンをクリップボードにコピーする

宛先のグループ、セクション、番号を選び (Arpeggiator または Pattern Write で)、**FUNCTION** + **PST**

パターンカラーもここで使える: **FUNCTION** + **LED**

MIDI と同期

[↑ 目次](#)

DAW に同期したいとき、MIDI でパターンをトリガーしたいとき、チャンネルを設定したいときに読む。

接続とチャンネル

MIDI モード。チャンネルは1から10のみ、In と Out の初期値は1。キー **1** から **0** がチャンネル1から10

MIDI In チャンネルの設定: **FUNCTION** + **DOWN**、次にチャンネルキー。MIDI Out の設定: **FUNCTION** + **UP**

選択中に **PATTERN CLEAR** を押すとチャンネルなしになり、ノートデータを無視または停止する。クロックと同期は常に動作する

スプリッターケーブル: 矢印が内向きなら MIDI In、外向きなら MIDI Out

内部シーケンサーが動いている間、ノートと Start、Stop、Clock が Out チャンネルで送信される

選択中のチャンネル LED は明るく、ほかは暗い
InstaDJ シーケンサーで外部シンセを鳴らすと、ミックスで音を重ねるのに向いている

MIDI でのパターン再生は DAW のクロックテンポに従うので、Bass Bot にクロックを送ること

MIDI から演奏する

Bass Bot の音域内のノートでシンセが鳴る。ベロシティ112から127はアクセント (本文では112超、表では112から127)

重なったノートはタイになり、スライドのように鳴る

MIDI モードでは鍵盤と DUAS キーも演奏できる

同期: 外部 MIDI クロックに自動で追従し、Start、Stop、Continue も受ける。その間 Tempo ノブは無効

MIDI でのパターン再生 2.0

MIDI モード。ノート12から43が、Track/Preset スイッチで設定したグループのパターンを再生する (下の表)

Note on でパターンが始まり、note off で止まる。
MIDI クロックを送らないと、各パターンの最初のノートしか鳴らない

長いトリガーノートに重ねたノートは、追加のノートを鳴らしたり、別のパターンで一時的に上書きしたりできる

MIDI モードの Live Performance Mode 2.0

MIDI モードで **PITCH MODE** を押す。DUAS と鍵盤が、受信したノートとパターンをトランスポートする

もう一度 **PITCH MODE** を押すと終了

Bass Bot 2台

Out 1 を In 2 に、In 1 を Out 2 に接続する。送り側で Copy、受け側で Paste

システムとメンテナンス

[↑ 目次](#)

チューニング、バックアップ、ファームウェア更新、OS バージョンの確認をしたいときに読む。

オートチューニング

MIDI モード。Tuning ノブを中央にし、電源を切って入れ直し、**FUNCTION** + **C#**

FUNCTION と C# の LED が数秒点灯する。消えたら、チューニングは5セント以内に収まっている
低い C は $C2 = 65.4 \text{ Hz}$ 。まだずれている場合は Tuning ノブを少し動かして繰り返すか、電源を入れ直してやり直す

ヘッドホンからアンプに切り替えた後、長期保管の後、大きな温度変化の後には再チューニングする
オートチューニングは MIDI から開始できない

システムカラー

MIDI モード: **FUNCTION** + **LED** (**FUNCTION** + **F#**)、次にカラーキーを押す。工場出荷時は赤

バックアップと復元 (Cyclone Studio アプリ)

ユーザーパターン、ユーザートラック、カラー、MIDI チャンネルをバックアップする。プリセットは含まれない

スプリッターケーブルで MIDI In と Out を接続する。アプリで Backup を選び、Bass Bot の

WRITE/NEXT を100%になるまで押す

復元: Restore とファイルを選び、100%になるまで

WRITE/NEXT を押し続ける

データは SysEx で転送される

ファームウェアアップデート

電池ではなく AC アダプターを使う。Cyclone Studio と .tt303fw ファイルをダウンロードする

電源を入れるときに **TAP / NEXT** を押し続ける。

TIME LED が青く点灯したままになる。押し続けたままアプリで Continue をクリック

DOWN LED が点滅したら離す。終了するとアプリに表示される

起動しても青い **TIME** LED しか出ない場合: ケーブルを確認してやり直すか、別のケーブル、コントローラー、コンピューターを試す

コンピューターから出る標準の5ピン MIDI ケーブルでもアップデートできる。スプリッターは不要

自分の OS を確認する

OS 1.0 (2012年): スペクトラムが右に1回スワイプする。OS 1.1 (2013年1月): 右にスワイプし、その後左に戻る

OS 1.2 (2013年9月): 赤い LED がフェードインし、右と左にスワイプする。OS 2.0 (2015年1月): 白い LED がフェードインし、その後スワイプする

お手入れ

パターンとトラックは電源を切ってもメモリーに残る。使わないときは電源を切る

少し湿らせた布で拭く。溶剤は使わない。本体は絶対に開けない

使わないときは電池を外す。付属のアダプターだけを使う

間違ったアダプターの後で電源が入らなくなった場合、問題を取り除けば保護モードが回復することがある。それでもだめなら修理が必要

トラブルシューティング

[↑ 目次](#)

音が出ない、または期待どおりに反応しないときに読む。

よくある問題

電源が入らない: DC ジャック付近の赤い LED を確認する。電池と付属アダプターを確認する

大きなハム音: 純正の 9 V DC 200 mA アダプターを使う。ランプや高消費電力の機器から離す

音が出ない: Headphone ではなく Output ジャックを使う。Saw/Pulse スイッチが中間になっていないか確認する

モノラルになる: ステレオなのは Headphone ジャックだけ。Output はモノラル

チューニングが合わない: オートチューニングを実行する

編集できない、または **FUNCTION** コマンドが使えない: Mode スイッチを Pattern Write にし、Normal Mode か Pitch Mode のコマンドを使う

MIDI In が動かない: スプリッターの矢印が内向きか、送信元が同じチャンネル (1から10) か確認する

MIDI Out が動かない: スプリッターが必要。矢印を外向きにして、機器の MIDI In につなぐ。チャンネル11から16は存在しない

OS を更新できない: すでに OS 2.0 かもしれない。別のケーブルや MIDI/USB 機器と、標準の5ピンケーブルを試す

TB-303 メモ

[↑ 目次](#)

元の TB-303 の情報 (CV と gate、同期、仕様、チューニング) が知りたいときに読む。

Roland TB-303 マニュアルより

これらの情報は Roland の元のマニュアルによる。TT-303 はクローンなので、すべてが TT-303 で確認されているわけではない

テンポ 40から300 BPM。チューニング範囲はプラスマイナス500セント。1パターンあたり1から16ステップ (3連符では1から15)

64パターン、7トラック、各最大64小節 (最大256)。音域は3オクターブ、shift を使うトラックでは4オクターブ **303**

CV out: 1オクターブあたり1ボルト、およそ1から5 V。Gate: オフ 0 V、オン約12 V。Accent は CV に影響しない **303**

Slide は CV をポルタメントのようにすべらせる。Gate は書かれた音符の長さより少し短い **303**

CV から TB-303 のピッチに合わせるには、シンセの VCO を32フィートにする **303**

TR-606 や TR-808 からの同期: ドラムマシンの sync を output にし、開始前に両方で CLEAR/RESET を押す **303**

オリジナルでは、シーケンサーからの stop と continue の同期は安定せず、途中から再開しないこと **303**

sync ケーブルを外した状態でパターンを編集する **303**

オリジナルのチューニング確認: Pattern Play で **PITCH MODE** を押したまま A を押し、**TAP** で A (220 Hz) が鳴る **303**

ヘッドホンでは音が耳に近すぎるため、ベースのピッチがおかしく聞こえる **303**

電池がメモリーをバックアップする。1分以内に交換すればデータは保たれる **303**

ショートカットと MIDI リファレンス [↑ 目次](#)

キーの組み合わせ、MIDI インプリメンテーションチャート、パターンをトリガーする MIDI ノートが必要なときに読む。

コマンドショートカット

モード	操作	キー
Preset	Copy	[FUNCTION] + [CPY]
Preset	Generate	[FUNCTION] + [GEN]
Pattern Write	コピー、ペースト	[FUNCTION] + [CPY], [FUNCTION] + [PST]
Pattern Write	Mutate	[FUNCTION] + [MUT]
Pattern Write	パターンカラー	[FUNCTION] + [LED]
Pattern Write	トランスポーズ 上、下	[FUNCTION] + [UP], [FUNCTION] + [DOWN]
Pattern Write	シフト 左、右	[FUNCTION] + [BACK], [FUNCTION] + [WRITE/NEXT]
Pattern Write	パターンを消去	[PATTERN CLEAR] + [#]
Pattern Write	Undo	[BACK] + [TIME]
Pattern Write	1/16と3連符の切り替え	[FUNCTION] + [TRIPLET]
Pattern Write	グループを消去	[A] + [B] + [PATTERN CLEAR]、5秒押し続ける
Pattern Write	タップモード、 メトロノーム	再生中に [PATTERN CLEAR]
Pattern Write	Unroll 2.0	パターンの終わりで [WRITE/NEXT] を押し続ける
Pattern Write	Gate time 2.0	[FUNCTION] + [TIME] を 押し続ける
Pitch Mode	次のステップ、 前のステップ	[WRITE/NEXT], [BACK]
Pitch Mode	ステップを挿入、 ステップを削除	[TIME] + [INS D#], [TIME] + [DEL C#]
Pitch Mode	タイ、休符	[TIME] + [TIE], [TIME] + [REST]
Pitch Mode	ステップ1へ移動	[PATTERN CLEAR]

モード	操作	キー
Pattern Play	Copy	[FUNCTION] + [CPY]
Track Write	小節を挿入、小節を削除	[FUNCTION] + [INS], [FUNCTION] + [DEL]
Track Write	小節をトランスポーズ	[PITCH MODE] を押してからノートキー
Track Write	トラックを消去	[A] + [B] + [PATTERN CLEAR]、5秒押し続ける
MIDI	オートチューニング	[FUNCTION] + [C#]
MIDI	システムカラー	[FUNCTION] + [F#]
MIDI	MIDI In チャンネル、Out チャンネル	[FUNCTION] + [DOWN], [FUNCTION] + [UP]
Arpeggiator	Copy、ノート順、カラー	[FUNCTION] + [CPY], [WRITE/NEXT], [FUNCTION] + [LED]

MIDI インプリメンテーションチャート (InstaDJ 2.0)

機能	送信	受信
ベーシックチャンネル	1から10	1から10
モード	4、Omni オフ、モノ	4、Omni オフ、モノ
ノート番号: パターントリガー	なし	12から43、MIDI モードのみ
ノート番号: 実際の音	48から96 (シーケンサー)	48から100
ベロシティ、note on	64 通常、127 アクセント	0 オフ、1から111 通常、112から127 アクセント
ベロシティ、note off	0	任意
アフタータッチ、ピッチベンド	なし	なし
CC 64	なし	あり、サステイン
CC 65	なし	あり、ポルタメント (スライド)
プログラムチェンジ	なし	なし

機能	送信	受信
システムエクスクルーシブ	あり	あり、パターンのバックアップとファームウェア更新
ソングポジション、ソングセレクト、チューンリクエスト	なし	なし
クロック	あり	あり
Start、Stop、Continue	Start と Stop	Start、Stop、Continue

パターントリガーノート (MIDI モード、グループは Track/Preset スイッチで設定)

ノート	ピッチ	パターン
12	C	A 1
13	C#	A 2
14	D	A 3
15	D#	A 4
16	E	A 5
17	F	A 6
18	F#	A 7
19	G	A 8

ノート	ピッチ	パターン
20	G#	B 1
21	A	B 2
22	A#	B 3
23	B	B 4
24	C	B 5
25	C#	B 6
26	D	B 7
27	D#	B 8

ノート	ピッチ	パターン
28	E	AA 1
29	F	AA 2
30	F#	AA 3
31	G	AA 4
32	G#	AA 5
33	A	AA 6
34	A#	AA 7
35	B	AA 8

ノート	ピッチ	パターン
36	C	BB 1
37	C#	BB 2

ノート	ピッチ	パターン
38	D	BB 3
39	D#	BB 4
40	E	BB 5
41	F	BB 6
42	F#	BB 7
43	G	BB 8